低学年×文房具

小学校教諭
ハチさん

現役小学校教諭。YouTube「小学校教諭ハチ」などで子どもにおすすめの文房具を発信。著書に「いちねんせいになったら大全・入学準備から入学後の学校生活まで「困った」「不安」をまるごと解決・！」（KKロングセラーズ）など。小3、小1、1歳の子どもの母。

ハチさんがコーディネート

低学年の子どもが勉強しやすい筆箱

「MONO 学習用消しゴム」
「4Bや6Bなどの濃い芯もよく消えます。カバーはミシン目入り、軽い力で消えるので低学年にも最適です」●132円／トンボ鉛筆

「はなまるくん」
「親指・人差し指・中指を置く位置がしっかりわかるので、正しく鉛筆を持つことができます」●各250円／エルプラス

「ピッタントンクリア」
「全面がクリア素材なので、裏面も中身が見えます。収納力も高く、細めから太めの鉛筆まで対応する鉛筆ホルダーも便利です」●1980円　クツワ

「ナノピタ キッズ 直線　定規 15cm」
「裏に滑り止めがついて押さえやすく、目盛りも大きく読みやすいのがポイントです」●176円　ソニック

「くもんの こどもえんぴつ 2B」
「太めの三角軸で持ちやいのが特徴。小1前後の、まだ鉛筆の持ち方が安定しない子どもにおすすめです。4B、6Bも展開」●6本入り・550円／くもん出版

「ippo！ 丸つけ用 赤7青3えんぴつ」
「授業でよく使う赤の比率が多い丸つけ用の鉛筆。転がりにくい六角軸です」●2本パック・132円～／トンボ鉛筆

学校で使う文房具の意外な盲点って？

「大人は知っていてあたり前と思いがちですが、低学年の子どもには、まず『出したらしまう』『落としたら自分で探す』ことを教えてあげましょう」と話すのは、現役小学校教諭のハチさんです。

「ランドセルを開けたら、鉛筆がそのまま入っていた、なんてことはありませんか？　筆記具をすぐになくしたり、筆箱の中でぐちゃぐちゃになったり。なくしても、自分のものかどうかわからない子どももいます」

まずは「モノの管理」の練習から。

「親御さんが記名する姿を見せたり、自分で選ばせたりすると記憶に残りやすく、大切に使います」

さらに、子どもの文房具選びでもう一点注意があるとハチさん。

「コンパスや定規、分度器などは、道具。としてきちんと機能するものを選びましょう。デザインを優先して、実はうまく使えなかったり、日盛りが見にくかったりすると一気にモチベがドがついてしまいます。文房具ひとつで、子どもの『できた！』や『楽しい』といったプラスの効果が生まれることもあるのです」

低学年の子どもが使いやすい筆箱や筆記具をハチさんがセレクト（上）。ぜひご参考に！

12536268_067-082_T1.indd 72　2026/02/04 13:22

使いやすさ×文房具

文房具プレゼンター
ふじいなおみさん

文房具にまつわるさまざまな記事を執筆。ラジオ番組「他放となおみのブンボーグ大作戦！」（ナナコライブラリーエフエム）ではパーソナリティを務める。著書に「子どもの困ったを解決する ハッピー文房具図鑑」（学研出版）など。小4女子の母。

ふじいさんがコーディネート

いろいろな発達段階の“忘れる”をなくす筆箱

「MARU liner」
「ペン先が半球型で、360度どの角度からも線が引けます。忘れたくない部分をサッとマーク！」●各154円　エポックケミカル

「ココサスふせん」
「ミシン目入りで分かれるふせん。片方は目次に、片方は大切なところに貼るなど、記憶をより強化できます」●418円～／ビバリー

「えんぴつチェック両面筆入れ Wシート補強　うかサポ」
「子どもの“うっかり”をサポートするから『うかサポ』。上部が透明になっているので、鉛筆の本数や削り忘れなど、ふたを開けなくてもひと目で忘れ物チェック完了です。ミントブルーやバイオレットなど色も充実！」●各1980円／ソニック

「MONO モノスティック」
「ノック式の消しゴム。軸部で一文字からサッと消せるので、消すことがストレスになりません」●284円　トンボ鉛筆

「uni タブレット授業鉛筆」
「タブレットでノートの写真を撮り、電子黒板に映す授業に最適の鉛筆。反射が少なく、見やすい芯設計です」●4本パック・308円～　三菱鉛筆

子どもの気持ちを優先して文房具を選ぶ

子どもにとって「いい文房具」とは？　プレゼンターとして、日々さまざまな文房具を研究、紹介しているふじいなおみさんは、まず「使いやすさ」を挙げます。

「大人がよかれと思って買ったものが、たとえば子どもの手が小さくて持ちにくかったり、重かったり。大人の感覚で選んで失敗するケースは意外と多いもの。子ども自身が使いやすいことが第一です」

さらに、文房具にはこんな役割もあると話します。

「新学期や長い休みの終わりなど、文房具を新調しますよね。文房具は、子どもの気持ちのリセットを手伝うツールにもなります。ですから、子どもが『使いたい』と思うものこそ、『いい文房具』でもありますよね」

そこでふじいさんは、子どもにできるだけ選ばせてあげることを提案。

「消しゴムひとつでもいいのです。もし学校で制約があるなら、自分の好きなものを集めた筆箱を、家や塾用につくるのもおすすめですよ」

文房具は、子どもの学びや気持ちをサポートしてくれるもの。そこで、ふじいさんがさまざまな発達段階の子どもでも「忘れにくい」筆箱（上）をセレクトしてくれました。

12536268_067-082_T1.indd 73　2026/02/04 13:23